初代総裁有栖川宮威仁親王殿下直筆書「護国」を金刀比羅宮に奉納

令和3年、日本水難救済会倉庫から、初代総裁・有栖川宮威仁（ありすがわのみや たけひと）親王殿下直筆の書「護國」が発見されました。

初代総裁
有栖川宮威仁親王殿下

このため、関係者と調整のうえ、専門業者による修復作業のうえ、日本の水難救済制度発祥の地であり、「海の守り神」である金刀比羅宮に奉納することとしました。

日本水難救済会は、明治19年に紀伊半島沖で発生した英国貨客船「ノルマントン号」海難事故において、25名もの日本人が亡くなったことに心を痛めた当時の金刀比羅宮 琴陵宥常（ことおか ひろつね）宮司が奔走され、黒田清隆総理大臣の賛同を得て、明治22年3月大日本帝国水難救済会として発足しました。

発起人・初代会長
琴陵宥常宮司

琴陵宥常宮司は、自ら初代会長となり、明治23年4月に有栖川宮威仁親王殿下が初代総裁に推戴され、以後、130有余年にわたり、日本の海の安全を支え続けて参りました。

この間、日本水難救済会は、設立以来の累積で約20万人、約4万隻を救助して参りました。

現在、全国で約5万人のボランティア救助員が、海難事故が発生すると時に生業を投げ打って救助に駆け付け、毎年、約350人、約150隻を救助しております。

本書は、初代総裁の、水難救助により国を護るという貴い想いが込められており、日本の水難救助制度発祥の地である金刀比羅宮に奉納することにより、金刀比羅宮が日本の水難救助に果たしてこられた偉大な功績と水難救助事業の重要性を広く国民の皆様に知っていただくことになると考えます。

是非、多くの方々にご観覧いただくとともに、水難救済会の事業について、ご理解を深めていただければと思います。

奉納式に参列された方々（金刀比羅宮HPより）
左から４人目：香川県水難救済会服部郁弘理事長
同６人目：第六管区海上保安本部橋本昌典本部長
同８人目：日本水難救済会遠山純司理事長
同10人目：金刀比羅宮琴陵泰裕宮司

奉納式の状況
（金刀比羅宮HPから）